

自我心理学の基本技法 1

精神分析の初期の先達に影響を及ぼした、自我心理学の歴史に関するセミナーに続いて、今回はその技法について検討するためのセミナーです。これらの技法は、治療同盟を作ることや抵抗分析をして関係の中で発展している転移を取り扱ったり、葛藤に焦点化したりする作業となります（以前の理論のセミナーに出なかった方のために、アンナ・フロイトから現代の自我心理学者ポール・グレイやフレッド・ブッシュらの仕事までの流れを確認する論文を以前のセミナーの資料から紹介することがあります）。基本、自我心理学の代表的な技法をひとつずつ確認します。こうした技法の問題点も含めて議論できれば、と思っています。

事例のなかで使うものですので、参加者が実際の事例を提示し、それに対して考える場面があれば、と思います。作業同盟をどう作り、抵抗分析をどのように導入するのか。私にとっては今回のセミナーが、これらの伝統的な技法を伝える最後のセミナーになると思っています。予定では、今年は作業同盟（グリーンソン）と主体の能動化（シェーファー）、そして最後に転移分析（マートン・ギル）を予定しています。この組み合わせは来年度の、転移の体系的な聴取（ラングス）、病理の対象関係論の導入などと繋がっています。私たちは今、転移分析を中心に英国で発展してきた技法と米国で関係論を中心に発展してきた技法の間にいると思いますが、そこに至る歴史以前の、それぞれの自我心理学の時代の精神分析の考え方を確認していくというセミナーです。三年程度ですべてが網羅できれば良いと考えています（全体をお伝えするには、もう少し時間が必要なかもしれませんが）。基本文献の紹介と技法の理論的な解説は妙木が担当します。可能ならば、それぞれの事例のヴィネットを持ち寄って、臨床的な発想について参加者が対話する形になると良いと思っています。

日程：5月24日、6月28日、9月27日、10月25日、2027年1月24日、2月28日
一回目に理論と技法、二回目以降、事例検討という形式になります。

時間：午前10時～12時

場所：小寺記念精神分析研究財団セミナールーム

司会・講師：妙木浩之（東京国際大学・南青山心理相談室）

受講料：25,000円

定員：対面20名（ハイブリッド形式：対面先着、その後はオンライン参加）

申込方法：下記URLまたは右QRコードよりお申し込みください。

<https://forms.gle/89m3Rknop1pmoGSQ9>

申込期間：2026年3月24日(火)～5月10日(日)

問い合わせ：小寺財団事務局 kodera.fps@gmail.com

